

きっかけをつなぐ旅によう「パスポート」

PASSPORT.

vol. 76
FREE PAPER
地域の出来事に触れる
ソーシャルマガジン

とくしま市活センター TOKUSHIMA NPO CENTER

徳島市市民活力開発センターとは？

徳島市市民活力開発センター（市活センター）ではNPO活動の支援、行政との協働事業を推進するための拠点として、徳島市や周辺の11市町村（徳島東部地域定住自立圏）に活動の場を持つNPO団体へさまざまなサポートを行っています。指定管理者として、認定特定非営利活動法人新町川を守る会が運営しています。

開館日

火～土曜日 10:00～21:00 / 日曜・祝日 10:00～18:00

休館日

月曜日※月曜日が祝日にあたる場合はその翌日
年末年始・お盆

連絡先

[TEL] 088-611-3886
[FAX] 088-624-3860
[mail] nposhimin@fm.nmt.ne.jp
[H P] www.tokushima-shikatsu.com

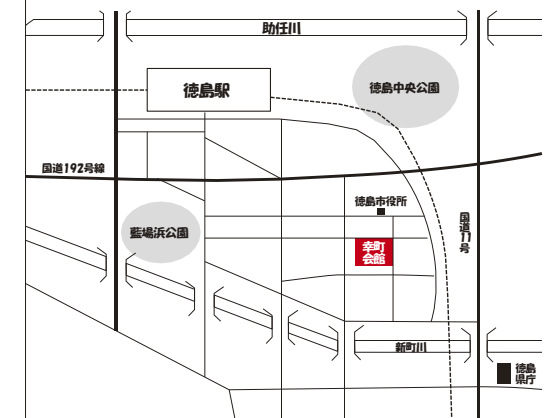
H P



Facebook



ACCESS MAP



所在地

〒770-0847 徳島市幸町3-71-1 幸町会館1階

お車で越しの方

当センターの駐車場（1台分）もしくは周辺のコインパーキングをご利用ください。

バイク・自転車でお越しの方

センター東側の駐輪場をご利用ください。

徳島発達しあわせネット



ボランティアサークル『友達いいな』

とくしま市活センター

PASSPORT.

発行月：2021年2月 号数：76号 発行：徳島市市民活力開発センター
この広報誌に関するご意見、ご感想は、発行元である徳島市市民活力開発センター（088-611-3886）までご連絡下さい。

イベント情報大募集！

PASSPORT.への掲載や、メールマガジンでの配信、徳島市市民活力開発センターの掲示板へ配置させていただく情報を随時募集しております。「取材に来てほしい！」「こんなイベントするよ！」といったお声をお待ちしております！





「ボールが入ったカートを押して、みんなにボールを渡す「ボール運びさん」

日常に「楽しい」と「喜び」溢れる 余暇時間をつくる 2人の想いとは？

皆が 楽しめる サッカー 教室

障がい者の人たちにとって余暇を楽しむ時間が少ないことは問題となっています。そこで月に1回「キッズサッカー教室」を始めた篠原さんとあわせネット代表の赤壁さんと副代表の篠原さんどういった想いをもって活動しているのでしょうか？実際に見学させてもらいお話をうかがいました！

サッカーは集団に入るための ツールみたいなもん

サッカー教室に来てくれているお子さんの中には学校や地域のサッカーチームに上手く馴染めず集団に入りづらい経験をした子もいると聞きました。しかし、『あわせネット』が開 催するサッカー教室は、誰でも受け入れ、包み込んでくれるところ。まずはここから入って次のステップにいったらいいなという想いがあったて活動しています。ボールを運んでくれた子も、実はあまりサッカーをしたがらない子だと後から聞きました。だから、無理にサッカーをするのではなく、「ボール運びさん」みたいに違う 役割でも参加できるっていうことを感じる人が増えてほしい。そう篠原さんは言います。

喜びの連鎖

また、保護者は自分の子どもが集団活動に上手く参加できているかを特に心配しているそうです。中には、サッカーをやらせてあげたいけれど、みんなと同じようにチームでサッカーをするのは無理だろうと諦めてしまう親もいるといいます。「子どもがゴールを決めたら親も喜び、その喜んでいる親を見て、子どもも喜んでいる。そういう風なんがあったらいいなあ。」と赤壁さん。その言葉から、子どもだけではなく保護者さんにも喜んでもらいたいという想いが強く感じられました。

在り続けた理由

また、篠原さんは「力を入れ過ぎたら長く続かない。長く続けることが目標であり、秘訣です。この会が無くなったら困る人もきつというんやろうなって思ったら、これからも続けたい。」と。赤壁さんは「なんとなくみんなふわーっと楽しんで、家族が喜んでくれて、今日帰ってご飯食べてビール飲んで、ああ今日良かったよっていう風なくらいで終われたらいいかな笑

「と笑顔で

話してくださいました。仕事として障がいのある子のために何かしなければいけないと背負うのではなく、障がいをもち人の余暇時間をつくって楽しもうとする想いをもって活動されている様子がうかがえました。今後ますます、楽しい時間、喜びの瞬間が増えていきますように。

鬼ごっこをする子ども達は、笑顔だったり、全力で鬼をけけたり、ピースをしてくれたり。とても楽しそうでした！



HP



サッカー教室

しあわせネットの活動の中心であるキッズサッカー教室は、発達障害のお子さんを対象として活動している。能力や年齢に応じて、「のびのびリーグ」「チャレンジリーグ」「プレミアリーグ」の3つにレベル分けをしている。当日参加する子どもに合わせて、誰もが楽しくできるようなプランを臨機応変に組み立てている。

INFORMATION

とくしま発達しあわせネット

『とくしま発達しあわせネット』とは、障がいをもつ子を支援している団体である。キッズサッカー教室の他にも、講演会の開催などの発達障害の理解の啓発や研修会も行っている。

HP



〔電話番号〕
0884-24-9201

子どもと先生と親と

「鬼したい人ー！」

子どもたちに元気に声をかける篠原さん。

「はい!!」

と腕を高く上げたのは子どもたち全員。

「じゃあみんな鬼するか! 笑」

子どもたちVS篠原さんという構図となった鬼ごっこ。楽しそうに会場を駆け回るその子どもたちの姿を見て、すかさずカメラのシャッターを切りました。鬼ごっこの終わりを告げる笛が鳴っても子どもたちは「これおもしろーい!!」「もういっかいやりたい!」と元気いっぱい訴えかけます。その後も様々なボール遊びが続きましたが

「やった! ゴールに入った!」と楽しそうにはしゃいでいたり、ボールが入ったカートを押して「ボール運びさん」という役割をもって走っていたり、子どもがゴールを決めるとおしっやったー! いえーい!」と両手をあげてはねていてうまい! やられたっ!」と赤壁さん、あんまりサッカーをしたがらない子に、「私体力ないから代わって!」と声をかける篠原さんの姿、そんな様子をお父さん、お母さんは一緒に拍手をして喜んだり、笑顔で見守ったりしていました。



大切なのは過程
 2020年11月28日 ボランティア
 サークル『友達いいな』が講師を務める
 「クリスマスリース作り」を取材しまし
 た。会場の中には子どもから高齢者まで、
 様々な世代の方が集まっています。この日
 は一カ月後のクリスマスに備えて、講師の
 レクチャーを元にリースを制作するとい
 うイベントでした。友達いいなではほぼ
 毎月このような、ものづくり体験を行
 っています。夏休みの時期には子どもたち
 の宿題の工作になりそうな貯金箱やバ
 ズルを作ったり絵を描いたりもするよう
 です。代表の桑原さんは「私たちの工作は
 クリエイティブに頭を使って想像力を
 使うので、作品の出来だけじゃなくて過
 程も楽しんでもらえたらと思っています。
 」とものづくりを行う上で大切にしてい
 ることを教えてくださいました。

子どもも大人も楽しめる！ 自然物と触れ合うものづくり体験

自然物
だけを使った
クリスマス
リース作り

令和2年11月28日 ふれあい健康館で開催された
 「クリスマスリース作り」。
 その講師を務めたボランティアサークル『友達いいな』が取材しました。

自然物を用いて

『友達いいな』がものづくりの際に使用する材料の多くは「自然物」です。この日もオリーブ、黒モミ、ヒバ、カイヅカイブキ……と何種類もの自然物が用意されていました。自然物故に同じ形、同じ大きさのものはありません。色んな素材を組み合わせながら、自分だけの作品を作り上げていきます。オリーブは色が変わります。変わってもまたそれはそれで綺麗やけんね。一年したらだいぶ茶色くなってしまいうけど、また一年後は新しいものを作りにおいてく(ださい笑)と、桑原さんはそんな調子で解説をしていきます。桑原さんの人柄故か、会場では参加者がお互いに教え合ったり途中で作品を見せ合ったり、終始和やかな雰囲気

体験を通して伝えたいこと

で作業が進められていました。自然物を集めるのは簡単ではありません。桑原さんは自らの足で、色んな場所へ出て行ってこいつた素材を集めてくるそうです。なぜそんな苦労をしてまで自然物を使用するのでしょうか？その答えは「子どもたちへの純粋な想いでした。昔の頃、子どもが自然物に触れるチャンスが少なくて、えなあ。こんなささいなきっかけかもしれないけど、山でどんぐり拾ってくるのか、そんな風に子どもたちの関心がちよつとでも広がってくれたらいいなあって思います(笑)」。また、子ど

もの成長を見ることができるともこの活動の醍醐味だそうです。ものづくりを通して子どもたちの感性を育み、家族間の穏やかな交流の時間にもなるこの講座。定員が埋まってしまうほどの人気の理由はここににあるのだと思いました。

活動の根源は「恩返し」

『友達いいな』が結成されたのは「7年前のこと。最近では新型コロナウイルスの関係で出来ていませんが、元々、は人形劇をしたり、ブラックライト劇をしたり、会員の特技を活かしたボランティアを行っていたそうです。桑原さんは元々教員として子どもたちに関わってきた経緯があります。この会を始めたのも「ずっと子どもたちにお世話になってきたけん、何か恩返しせないかなあ。」と思ったからだと言います。そして集まってくれた会の人からも「ええ雰囲気、ふざけあいながら活動しよるけん、楽しみながらせてもらってます。」(笑)「と言葉を続けました。そんな『友達いいな』の活動情報は、徳島市にある『ふれあい健康館』のホームページに掲載されています。講座は大人気コンテツツですので、定員がいっぱいになってしまうこともあります。興味がある方はぜひ一度申し込んでみてください。きっと温かい素敵な空間が、迎え入れてくれますよ。」



INFORMATION

ボランティアサークル 『友達いいな』

徳島市にある「ふれあい健康館」を拠点としてボランティアサークル。平成16年に結成し、手作り劇(劇・ブラックライトシアター・人形劇など)や工作、運動遊び、英語遊びといった会員の特性を活かした楽しくて自由な出前事業を行っている。

[住所]
 〒770-8053
 徳島市沖浜東2丁目16番地
 [電話番号]
 088-657-0190

講座の情報は、
 『ふれあい健康館』の
 ホームページをご覧ください。

H P



NEWS



↑ 出店・出演していただいた団体は17に及び、会場には子どもから大人まで、幅広い年齢層のお客様が参加されていました。

NEWS 01

第15回とくしま
NPO・ボランティアフェアの開催

令和2年11月1日(日)・市民活動団体の連携強化を目的に、とくしま県民活動プラザ・徳島県社会福祉協議会と協働して「団体間のネットワークが深まる」「市民に向けたPR」を行う企画を開催。イベントの動員面において、コロナ禍の影響から集客が難航することが予想されていましたが、予想に反して当日は多くの参加者が来場され、市民へのPRを行うことができました。



↑ 夏の間に生い茂った雑草たちを伐採。座学だけではなく、現場での活動を体感してもらうことで、NPO活動に対してのイメージを深めてもらいます。

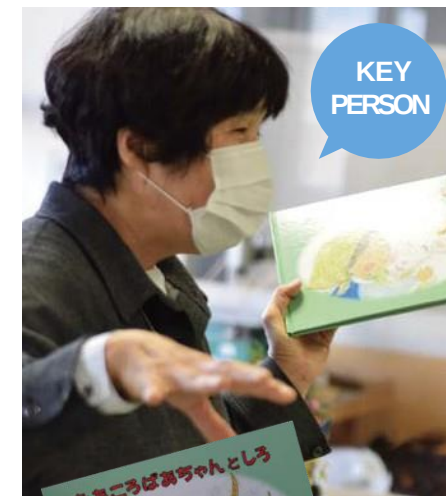
NEWS 02

NPO法人短期研修

今年も、徳島県庁の新規採用職員の方へ向け「NPO法人短期研修」を行いました。研修は二日間に及び、県内のNPO活動の現状を知る講義と中心市街地の清掃活動を実施しました。徳島の未来を背負う彼らに、NPOについての正しい認識、協働することの意義を理解してもらうことで、今後の政策立案にぜひ活かしてもらいたいと思います。参加された12名の職員の皆様、お疲れ様でした！

「たあごうばあちゃんとしろ」

『友達いいな』の桑原さんよりご紹介いただいた原さん。令和2年1月に自ら絵本を製作し、販売や寄付などを行っています。自らの幼少期を題材としたこの物語からは、命の尊さを学ぶことができます。



絵本作りを始めたきっかけは？

長年油絵をしていたし、幼稚園教諭だったこともあって一冊は作ってみたいという夢があったんですけど、ね。それに、幼児期から命を大事に思う教育をしたいなって思ったときに絵本は子どもの心に残りやすいのかなっていうのもあって、それで自分の幼少期の体験を絵本にして自然と触れ合うことの大切さや命を尊ぶ心を届けたいなって思いました。



<販売場所>
平徳/紀伊国屋/インダメ機
<問い合わせ先>
TEL:090-2828-3162(原たず)

絵本に込めた想いは？

真実を見る目、公害のことに気が付いたり、科学をする心とか、そういうことの基盤になるのが、自然を見る、っていうことだと思います。私の幼少期のような自然に囲まれた暮らし、そして大切な家族であったし、ろ、が残してくれたものが、子どもたちの豊かな感性を育んでくれることを願います。

大変だった点は？

絵本の製作中に病気になるってしまったことですね。早く絵本を仕上げてしまわないと、私の命が尽きるのどちらが先になるか、そう思うて死にもの狂い、なんとか作り上げました。

工夫した点は？

一番どにも喜ばれるところはタケノコが伸びていく長尺折り込みページですね。ここは物語のクライマックスシーンでもあり、感動するところです。また、作中の会話は、阿波弁で描かれており、よ「みたいな言いまわしが子どもに大人気だったりもします。ぜひおはあちゃんおじいちゃんから孫へ読み聞かせてあげてほしいです。

